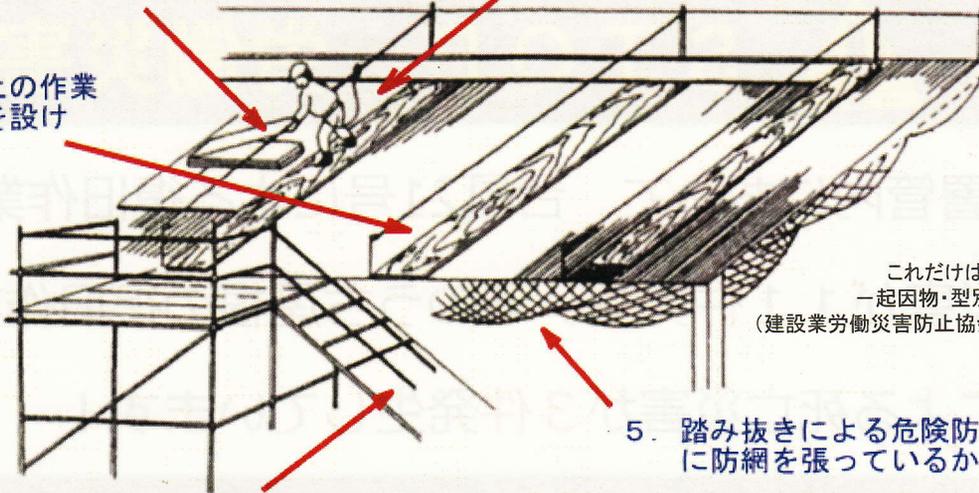


## 墜落災害防止のポイント

1. 屋根へ材料を置く場合、足場板等を敷きつめ材料置き場の措置をしているか

2. 幅30cm以上の作業床(通路)を設けているか



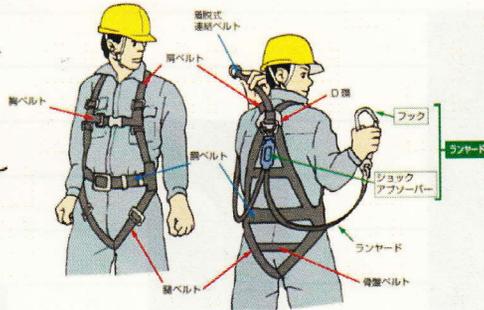
これだけは なくそう 繰り返し災害  
—起因物・型別による災害事例研究—  
(建設業労働災害防止協会 大阪府支部 編より)

3. 屋根への昇降設備はあるか

4. やむを得ず屋根端部で材料を上げおろしする場合、安全帯を使用しているか

5. 踏み抜きによる危険防止のために防網を張っているか

自分の足もとに  
要チュー意じゃ!



### 労働安全衛生規則 抜粋

(スレート等の屋根上の危険の防止)

第524条 事業者は、スレート、木毛板等の材料でふかれた屋根の上で作業を行なう場合において、踏み抜きにより労働者に危険を及ぼすおそれのあるときは、幅が30センチメートル以上の歩み板を設け、防網を張る等踏み抜きによる労働者の危険を防止するための措置を講じなければならない。

## 命綱GO活動のポイント

### 1. 安全帯着用確認

建設現場は入場する際、安全帯を着用しているか確認しましょう。

安全帯は二丁掛けを基本とし、足場や鉄骨の組立・解体作業には 墜落時の衝撃を緩和するハーネス型安全帯を使用しましょう。

### 2. 安全帯使用確認

適宜作業場所を巡視し、使用状況を確認しましょう。

### 3. 安全帯の点検

安全帯の点検状況を確認し、適正な安全帯を使用するよう指導しましょう。

### 4. 危険体感教育の実施

危険を体感させるようなビジュアル教育を実施しましょう。

### 5. 安全帯取付設備(親綱)の設置

規格を具備した親綱を適正に設置しましょう。

### 6. 作業手順の見直し

安全帯を確実に使用するための作業手順書を作成し周知しましょう。